

平成25年度 学校評価自己評価表

(中間・最終)

学校名 三原市立南方小学校 校番(20)

a 学校教育 目標	かいはつしょう 確かに 豊かに 健やかに か…考える子(習得) い…活かす子(活用) は…発見する子(探求) つ…創り出す子(探求)	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 知・徳・体の基礎・基本の力を身につけ、自他を尊重できる子どもの育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域の良さを受け止めながら、特色ある教育を創造していく学校
--------------	--	----------------------	--

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価			コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎・基本の力の定着を図る。	○授業力の向上を図り「分かる授業」を創る。	○市標準学力調査及び基礎基本定着状況調査の通過率を向上させる。	市標準学力調査及び基礎・基本定着状況調査の通過率を80%以上	85%	107%	75.1%	88%	B	基礎基本の平均通過率は3教科とも80%を越え、た。標準学力3教科の平均点は75.1だった。概ね全国平均を上回った。	通過率の低い課題を分析し、継続的に定着を図る。	◎			学力づくりには継続的に取り組んでほしい。
			○授業研究を実施する。	一人、授業参観を学期に1回以上研究授業を年2回以上実施	100%	117%	100.0%	100%	A	予定通り授業研究を行い、学習規律や授業スタイルが全校でほぼ統一できた。メンバーが変わっても継続していく。	プロジェクトを作って実施したことで、協議が深まった。今後もさらに取り組む。	◎			
		◎考える力(思考力)の基盤となることばの力の定着・活用を図る。	○「正しく読み取る力」「正しく読み解く力」の定着・活用	学期末のまとめテスト(国・算)における通過率80%以上の児童	85%以上	82%	88.5%	104%	A	通過率80%以上の児童が88.5%いたことは成果であるが、通過率30%未満の児童が全校で2名いるので、個別支援等で力をつけていく。	平均通過率30%未満の児童に対する支援(T.T)など具体的に実施する。	◎			
			○本郷スタイル(段階的授業モデル)やテキスト(主体的段階的学習モデル)の定着と活用を図る。	2ヶ月ごとにアンケートを実施し、肯定的評価85%以上	85%	85%	86.0%	101.0%	A	基本的な話すこと聞くことの力は、児童の自己肯定感も高まった。しかし、さらに高いレベルへと望むため、厳しい指導になり10月より自己肯定感が下がった。	できていることについても積極的に評価することで、児童の意欲を高める。	◎			
			○読書活動の充実を図る。	読書記録に記入 低学年:70冊以上、中学年60冊以上、高学年:40冊以上	85%	98%	89.7%	106%	A	概ね目標達成率を上回った学年が多かった。さらに、児童が進んで読書をするよう工夫する。	学級文庫の充実を図ったり、図書司書に「おすすめの本」を紹介していただいたりする。	◎			
			○家庭学習の習慣化を図る。	・課題の提出率90%以上	85%	94%	95.6%	112%	A	全校で95.6%の児童が課題を提出できている。昨年度できなかった児童で本年度がんばった児童が増えた。	家庭学習の定着が図れない児童には、放課後等を使って個別指導を行う。	◎			
豊かな心の育成	自他を尊重する心と態度を育成する。	○基本的生活習慣の定着を図る。	○主体的に時間を守って行動できる児童を育成する。	時計を見て行動する。 集合時間を守る	95%	89%	96.0%	101%	A	目標値は達成したが、やはり声かけが必要がある場合がある。	チャイムや放送の無い日を設け、更に意識化を図る。	◎			
			○自他を大切にすることば遣いの定着を図る。	ことば遣いに対する児童の肯定的評価	95%	78%	95.2%	100%	A	「ちくちく言葉」「ふわふわ言葉」が定着し、意識課が進んだ。	正しい判断ができるよう、その場で繰り返し指導を行う。	◎			
		◎自己肯定感を醸成させる。	○自己の良さに気づき、人のために行動できる児童を育成する。(かがやき活動)	自他の良さに気づき、人のために行動できたと肯定的評価ができる児童を95%	100%	72%	85.2%	85.2%	B	「かがやき活動」により自己肯定感を高めた児童が多くいる。	人から褒められる、認められるという体験を計画的に仕組んでいく。	◎			教師と子どもの信頼関係ができてい
			○やりきった成就感を味わわせる体験活動を行う。	体験活動を実施後、児童アンケートを実施。肯定的評価100%	100%	94%	93.6%	94%	B	はっきりとした目標設定のできない児童の達成感が低い。同じ児童に固定化されている。	目標やアプローチについて、前に話し合い決定しておく。	◎			
信頼される学校	学校評価・学校関係者評価の充実を図る	◎組織的・機能的な学校体制づくりを行う。	○ボトムアップを推進し、1起案1改善を行う。	ボトムアップができたとして自己評価できる職員を85%以上	85%	60%	82.0%	96.0%	B	ベテラン層の自己評価が上がってきた反面、若手職員の自己評価が上がらない。	経験を積ませ、自信をつけさせていきたい。褒めて伸ばしていく。	◎			しっかりと若手を伸ばして欲しい。伸びる学校にしてほしい。
		○幼保小中の連携を推進する。	○基本的な学習習慣・小1プロブレムの解消・健康・特別支援教育を中心とした幼保小連携と生徒指導・中1ギャップの克服を中心とした小中連携を行う。	連携の回数 幼保小連携3回 小中連携20回	100%	100%	115.0%	115%	A	計画していた連携以外にも、直接幼稚園・保育所を訪問させていただきなど、中身の濃い連携ができた。	直接訪問しての交流は成果が大きかったので、来年度も継続していく。	◎			
		○保護者・地域への学校情報の公開に努める。	○学校便り・保健だよりを毎月1回以上、学級通信を週1回以上発行する。	毎週(毎月)1回発行	100%	100%	100.0%	100%	A	学校便りや学級通信等を発行する意義を理解して、目的意識を持って発行できた。	保護者のニーズをつかんだ通信にしてい	◎			
			○OHPの更新を毎月1回以上行う。	毎月1回以上更新	100%	100%	100.0%	100%	A	HPのリニューアルもあり、頻繁に更新した。	更新スキルについての研修は継続する。	◎			

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 学校評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: わからない。